

K I N D

KINJO MIND



金城大学 後援会会報誌【カインド】

2003年3月発行号
(第2号)

仲間でいたいという感じで...

学園祭を一緒に見て回って

学園祭レポート

学生 辰野聡則・江坂幸恵・才田裕美・高森紀子／特集

試験で判断できない、資質や適性を
日頃のボランティア活動で知ることが...

石川県福祉人材センター 人材研修課長 打田幸平氏／メッセージ

平成14年度総会、懇談会の報告／後援会から

キンホール国際大会 世界第2位の偉業達成、
日本介護福祉学会開催決定 など／トピックス

オープンキャンパスを開催、クラブ活動報告、
刈部俊二氏を講師に招き秋陸体育学会を開催、
本場カナダでの世界大会に出場 など／活動レポート

就職支援事業報告

3年生進路調査、4年次は超多忙、
遊学館高校 甲子園大会初出場ベスト8 など／キンジョウライフ

自由に行動し、好きな所へ行きたい、 そんな想いと一緒に見て回りました。

介護福祉コース3年 辰野聡則・才田裕美・高森紀子
社会福祉コース2年 江坂幸恵

「障害がある人もない人も、みんないて当たり前」ということに感動して 辰野

今年の学園祭にも遊びに来てもらい、一緒に校内を見て回った「つながりの家」のメンバー（利用者）とは、大学の春休みを利用して定期的にボランティアに行かせてもらったのがきっかけで知り合うことができました。

「つながりの家」にボランティアに行った時は、ミーティングの時間に、みんなでレクリエーションの内容や旅行、バザーなどの行事について決めていました。そこではメンバー（利用者）一人ひとりが主体的に関わりを持ち、また本人の希望ができるだけかなえられるように考えられた上で話し合いがもたれていました。メンバー（利用者）は、誰しも「自分たちの活躍をたくさんの人に知ってもらいたい」という思いがあることが伝わってきました。そして「障害がある人もない人もみんないて当たり前の社会を願っている。」ということに、私は感動したことを覚えています。

それまでの私は、同情心からボランティアをやっていた部分があったと思います。自分自身では善意でしていることが、その人にとっては自由を奪われる気持ちにさせていたのかも知れません。障害があっても自由さえあればひとりで買物に行ったり、散歩に出たりすることができます。そういうことを

通して、地域の人と知り合うことができます。

例えば障害があっても障害のない人と同じように地域社会の中で生活することができると思います。

「誰もが一人で自由に行動ができて、好きな所へも自由に行きたい」と思っている」ということを理解し、それが普通にサポートできている社会にしていく必要がある、と私は考えています。



学園祭を一緒に見て回る時もボランティアというより「仲間」という感じで 江坂

私は松任に住んでいる人たちを中心とした「フレンズ」、障害をもっている人もそうでない人も一緒に出掛けよう！一緒に何かをしよう！という考えの人たちの集まりであるサークルに入っています。

この日に来校した「つながりの家」のメンバーの方たちとも既にフレンズで知り合っていた人が多かったので、学園祭を一緒に見て回る時もボランティアという感覚ではなく「仲間」という感じで見て回ることが出来ました。

障害や社会的なバリアにより、仲間達の中には私

第27回金城大学学園祭が秋に開催されました。3学年が集い、実行組織も自主的につくり、企画から運営までを行いました。福祉に関係したイベントもいくつか行われ、また「つながりの家」の皆様も遊びに来られるなど、充実した学園祭となりました。

特集

つながりの家（松任市）



平成3年4月に開所した石川県松任市にある作業所。平成13年4月に第二つながりの家も松任市内に開所し、現在松任市・野々市町・鶴来町・美川町から18名が通い、さまざまな作業をしています。本学学生もメンバーの方々や友達のようになつなかりを持ちながら、仕事の手伝いや外出支援等を行っています。

達の手助けが必要となってしまう場合も多くあります。そんな時には、学校で得た知識や技術を全て使ったとしても上手くいかず、仲間に迷惑をかけてしまう事もあります。しかし、そんな経験の繰り返しによって仲間の事をよりよく理解する事が出来るようになった気がします。また、学校では学ぶことのできない経験（知識や技術）も得られ、更には社会勉強にもつながっていると思います。現在の学校内外でのこういった活動での人との出会いが、ガイドヘルパーや学童保育でのアルバイトに活かされていると思うし、福祉の現場を知る事にもなると思います。今後もこういった出会いやつながりを大切にしていき、将来の自分につなげていければと考えています。





企画を成功させる難しさを実感。「良かった」と言う感想がはげみに 才田、高森

学園祭実行委員になって、最初に企画内容について悩みました。他大学と比較してもこれまでの学園祭にあまり特色がないとのこと、話し合いに時間をかけ、やはり福祉系の大学の特色を活かして「福祉」をテーマにして講演をしようとの意見がまとまり、今回の「福祉フォーラム」を開催する事になりました。

講師は全国的な福祉関係の著名人の方がよいのかなどを話し合い、社会福祉協議会や先生方にも相談しましたが、決定的な案が生まれません。そんな中で日頃のボランティアを通して障害者スポーツの指導をされている方の存在を知りました。すぐにその方(井上明浩先生)に連絡をとり、経緯を説明すると、快く引き受けて頂けました。

さっそく学生にチラシを配布し、ポスターを掲示して参加を呼びかけました。結果的には、思うように参加者を集められず残念でしたが、聴講された方々から良かったという感想をいただき、励みになりました。

企画から主体的に参加して、私達にとっては成功させる難しさや楽しさを数多く学び、また多くのことを吸収できたと思います。

最後に、多くの方達の協力があつてこそ実現できたものなので、皆様に御礼を申し上げます。



実習やボランティア活動に日頃どう取り組んでいるか。試験だけでは判断できない、資質や適性を知ることができます。

打田幸平氏
石川県福祉人材センター 人材研修課長

福祉の職場への就職活動

福祉の職場には、利用対象者、提供するサービス内容、サービス提供形態（人・通所・訪問）、経営主体等によりさまざまな職種があります。

自分の就きたい仕事のイメージが固まったら、それがどの職場のどの職種なのか、その仕事に就くのに必要な資格があるのかなどを調べてみましょう。

職員募集の特徴

福祉の職場では、一般企業が行っている「定期採用」はあまりありません。職員募集の特徴をよく理解した上で、福祉職場への就職活動を始めましょう。

福祉の職場では、一般的に次のような場合に職員募集が行われます。

●現在在籍している職員が退職する。

●施設・事業の規模拡大、新規施設の開設・新規事業の開始などにより職員を増員する必要がある。

したがって、職員募集の時期は、それぞれの施設の事情により異なります。その年度に職員採用を行わない職場もあります。

採用決定の時期

中央福祉人材センターが行った調査によると、4月採用の職員を採用決定（内定）する時期は、1月から3月に集中しています。他分野の職場に比べると、かなり遅いと言えるでしょう。

また、年度の途中で欠員が生じた施設・事業所では、短期間に職員を補充するため、その時点で募集をし、即採用を図っています。これは、中途転職者には有利ですが、新卒者の就職活動には不利な点が多いかもしれません。しかし、これも自分の希望す

る職場に就職するための選択肢のひとつと考えれば門戸はさらに広がると言えるでしょう。

職員募集の方法

施設・法人では職員の募集を決めると、できるだけ早い時期に採用を計画します。そのため、福祉人材センター・公共職業安定所をはじめ、その施設・事業所が所在する市町村の広報誌、新聞広告を中心に求人掲載します。

新卒者向けの求人は、中央福祉人材センターが行った調査によると、介護職、指導員・相談員等の相談援助職、保育士とも「学校への求人依頼」が5割を越えています。学校に掲示される就職情報をためにチェックしましょう。

また、実習やボランティア活動は、仕事内容ややりがいを体験できるだけでなく、すでに選考が始まっていることを意識して積極的に取り組むことが大切です。採用試験だけでは判断できない資質や適性を採用側が知る機会となるからです。

石川県福祉人材センター

金沢市本多町3-1-10 石川県社会福祉会館2F TEL (076) 234-1151

ここで教えていただきました

福祉人材センターは、福祉の仕事に関する求人・求職の窓口です。大学・短大・専門学校等の学生は、最終学年の4月1日から情報提供希望者として登録を受け付けており、登録をした学生に対しては、毎月1回求人情報を郵送し、また、職場説明会・入門講習会等の案内などを行っています。また、「福祉しごとガイダンス」を実施し、職員採用予定のある社会福祉施設等の人事担当者との合同面接会を行っています。他にも、「福祉の仕事相談コーナー」「資格取得相談コーナー」などがあり、福祉の仕事に関心のある方ならどなたでも無料で参加できます。

就職を希望しているみなさんと、求人を出している福祉施設との架け橋となっています。



後援会から

平成14年度 後援会総会・懇談会の報告

後援会総会並びに懇談会を、7月7日(日) 本学1階中講義室にて開催。当日は1年生保護者26名、2年生保護者17名、3年生保護者40名が出席されました。

総会では、後援会高嶋会長、三澤学長の挨拶に始まり、会長・役員・委員の選出(右表)、平成13年度決算及び平成14年度予算並びに事業計画、会則の改正点について報告し、承認が得られました。

懇談会では、保護者の皆様から多くの意見・日頃の疑問等を頂き、出席した本学教員にとっても大変有意義な意見交流の場となりました。

役職	平成14年度役員、委員氏名	(敬称略)
会長	高嶋 哲	
副会長	橋本美咲、森 泰洋	
会計監査	智原 茂、安田裕基	
委員 (3年)	青木一八、大懸恭子、小笠原省三、川通 洋、小堀和子、高橋 亘、辰野邦子、谷村松一、徳野憲一、松永久美子	
委員 (2年)	井合涼子、奥田幸子、金田裕子、川村恵子、西東晴江、坂本博幸、中出 修、西出陽子、古谷正幸、宮崎永次	
委員 (1年)	荒井雅子、太田順司、堅田義光、琴坂幸広、白江将二、西田茂喜、政氏啓子、宮井雄司、山本淑江、吉田 寛	

第3回入学式、214人が福祉の道に

入学式は松任市民会館で行われ、社会福祉学部新入生201名と編入学生13名が福祉の道の第1歩をスタートしました。

三澤義一学長の式辞に続き、加藤晃理事長が「目標に向かって力一杯努力し、素晴らしい社会人となって巣立ってほしい」と激励しました。

また、角光雄松任市長、西川寿夫同市議会議長に続き、後援会・高嶋哲会長が祝辞を述べ、最後に新入生を代表して徳田澄麗さんが宣誓をしました。



(写真提供：北國新聞社)

日本介護福祉学会が本学にて開催決定

介護福祉士を中心とした会員の全国学会である第11回日本介護福祉学会(会員数約1400人)が今年9月に本学をメイン会場に開催されることが決定いたしました。

「日本の介護、次の10年」をテーマに「学びを求め、つなぐ」を今大会のテーマに本学副学長の古瀬徹教授が基調報告を行い、当日は全国から約300人の会員の参加が予定されています。

学会初日は、松任市学習センターで開会式、特別講演が行われ、松任グランドホテルで交流会が、また2日目は、本学を会場にシンポジウム、10の分科会に分かれて研究発表・討論、総会などが行われます。

キンボール国際大会出場 世界第2位の偉業を達成

本学学生4名(2名のサークル・丹保瞳、中綾乃、池田麻衣、磯上知佳)が日本代表女子チームに選出され、キンボール発祥の地カナダケベック州で開催された第2回世界大会に出場しました。

そしてトップブレイヤーが集う世界大会で第2位という快挙を成し遂げました。
(関連記事：体験レポート)



キンボール【Kin Ball】

1984年にカナダの体育学士が発案。名前の「キン」はキネシス(運動感覚という意味)ということばが語源で、子供からお年寄りまで全ての人が楽しめる、身体全体を使うスポーツという意味。1チーム4名の3チームで、約15～20m四方のコート内で大きなボールを使い、サーブやレシーブを繰り返し点数を競うゲーム。体力に合わせてルールを変える事もでき、様々な楽しみ方が可能。日本でも西日本を中心に全国に愛好者が増えており、当校でも推奨しています。

平成14年度 新任教員紹介

①専門分野 ②担当科目 ③学生へのメッセージ

木谷 尚美 (きだに なおみ)

①老人看護 ②介護技術Ⅰ・Ⅱ、介護実習、実習指導、基礎・卒業研究ゼミ
③大学生活での真摯な努力と学びが豊かな感性と確かな技となり、希望と未来を与えるものになって欲しいと願います。そして私自身もみなさんとの出会いを大切に、共に学び、語り、歩んでいきたいと思っています。



古瀬 徹 (ふるせ とおる)

①国際福祉政策 ②国際福祉政策、社会保障論
③「学生」ですら勉強はもちろん大切ですが、スポーツ、音楽、絵画など自分がこれまでやってきたことを続け、また新しい分野の楽しみを見つけてください。この4年間の生活は、あなたの一生をふくらませます。



本田 昂 (ほんだ たかし)

①放射線生物学、放射線腫瘍学、環境放射線学 ②生命科学
③福祉を支える人には真の思いやり、すなわち「愛情」「尊敬」「理解」の念が不可欠です。福祉に取り組むことを決意した原点＝真心を忘れることなく、豊かな知識と優れた技能を両翼に、プロとして、そしてエキスパートとして大きく羽ばたいていただきたいと願っております。



守屋 以智雄 (もりや いちお)

①地理学 ②自然地理学、地誌
③人生は短いもの、「老いやすく学成り難し」は本当です。せつかくもった一生、その瞬間々々を大切にして、思う存分、悩み、喜び、考え、行動して下さい。死ぬ瞬間に「わが人生悔いなし」といえるように、何事にも積極的に取り組む心構えと行動力を培ってほしいと思います。



から日光アリーナにて活動しています。「プロレスから学ぶ。」をテーマに研究を重ねています。(代表 藤田正憲)

Open Campus

3 オープンキャンパス 高校生の皆さんと先生や学生 が気軽に懇談

少子化傾向を反映して、近年は私立大学ばかりでなく国公立大学でもオープンキャンパスを実施する大学が増えてきました。従来は、外部の人々が気軽に大学に入れるイベントといえば、大学祭しかありませんでしたが、今やオープンキャンパスは、大学祭とならんで、大学恒例の一般開放型イベントになりつつあります。

6月～9月の土日を中心に計8回のオープンキャンパスを開催。例年のような模擬授業・キャンパスツアー・各種展示、手話や介護実習の体験などの内容に加え、今年は先生方や学生と参加者が気軽に懇談できるような機会を新たに設けて好評をいただきました。のべにして250人以上の参加者を迎えましたが、高校生や保護者の他に、3年次編入学を想定した大学生や社会人が参加されたことも今年の特徴でした。



Academic Activities

4 研究会 元陸上日本代表選手 苅部俊二 氏を講師に招き、体育学会開催

●北陸体育学会が本学を会場に開催されました。

3月23日(土)、日本体育学会・北陸支部主催のスポーツ科学セミナー北陸体育学会が本学を会場に開催されました。

北陸三県からスポーツ指導者、スポーツドクター、大・高・中・小学生及びその保護者など関係者200名が参加しました。

講演の部では、苅部俊二氏(アトランタ・シドニーオリンピック400m出場、世界陸上選手権銅メダリスト)による講演「わたしのジュニア期」が行われました。

シンポジウムの部では、本学平下政美教授の座長の下、「ジュニア期のスポーツ活動のあり方を考える」をテーマに、プロテニス元世界ランキング26位の遠藤愛氏や、スポーツドクター、スポーツ心理学、環境生理学等の各専門家6名のシンポジストによる熱心な討論が行われました。

また、ポスターセッションの部では、10題の研究発表があり、活発な討議が交わされました。

(学会事務局/教授 平下政美)

●第2回北信越社会福祉史研究会が本学を会場に開催されました。

2001年の第1回に引き続き、第2回北信越社会福祉史研究会が昨年11月16日(土)に本学を会場に開催されました。

佐藤進会長(新潟青陵大学教授)のご挨拶を始め、基調講演として金沢市の児童養護施設林鐘園園長、荒崎良徳氏より「第三善隣館と荒崎良道師」のテーマでご講演いただき、総会後の午後は以下の3人の研究発表がありました。

1. 「『国民福祉』40年体制」元村智明氏(本学)
 2. 「新潟県の眼病患者・失明者救済史(1)―推定全国一の失明者数と眼病・失明原因について―」星野吉曹氏(新潟みずほ福祉会みのり園)
 3. 「石川県における児童保護事業の展開」矢上克己氏(本学)
- (研究会事務局/助教授 矢上克己)

Extracurricular Activity

5 体験レポート

本場カナダでの世界大会に出場しました。

本場のカナダで、日本代表として試合し、多くの事を学びました。

私がキンボールというスポーツに出会ったのは、大学の授業でした。その後友人がキンボールをはじめ様々なニュースポーツを楽しむサークルを作ったと聞き、2年の春に参加するようになりました。

始めて1年と少し過ぎた頃、なんとキンボール世界大会の日本代表選手に選ばれるという幸運がやってきたのです。まさか自分たちが選ばれるとは夢にも思っておらず、只驚くばかりでした。1週間の授業欠席、学園祭期間中、また費用のことなど問題は多かったけれどこんなチャンスは二度とないと思い、参加を決めました。

いざカナダへ行き最初の課題は、女子チームは今回初めて他校の選抜メンバーと合流す

るので、「チームワークの形成」でした。綿密なミーティングはしましたが、練習時間はほとんどなく、むかえた予選第一試合。私たちは本場カナダの攻撃に手も足も出ない状態でした。「もっと練習したい」という強い要望により、期間中猛特訓プログラムを組んでもらい、毎日激しい筋肉痛に襲われていました。それでもボールを前にすると、痛みを忘れ体が動くことが不思議でした。これほどキンボールに魅了されていたのでしょうか。

銀メダルという結果は、意欲と厳しい練習に耐えた力、そしてコーチ、スタッフや男子選手みんなの指導・協力・応援の賜物です。

今回の国際大会を通して、キンボールに対し自分が今までそれほどの熱意を持っていなかったということに気がきました。サークルでは男女混合チームで、男子の指示でプレーをしていたため、技術も未熟な上に、考えながら試合をすることもできていないと知りました。しかしカナダで他のプレーヤーや環境から強い刺激を受け、さらなる意欲が芽生え、技術面のみならず精神面においても成長できたと感じています。

さらに、私は海外初体験ということもあり、日本とカナダとの文化や習慣の違い、他の国の人との交流など多くのことを体験し学び、楽しんでくることができました。応援や援助してくださったサークルの仲間や先生方、家族に感謝しています。

KIN-BALL最高!! (3年 丹保 瞳)



Event

1 学園行事

在校生と新入生の交流、新入生歓迎会

4月23日、第2回新入生歓迎会が行われました。内容は、ウォークラリー、ビンゴ大会、各サークルの活動内容の紹介などを行いました。ウォークラリーを企画に選んだ理由は、新入生歓迎会は、新入生と在校生が交流をし、かつ新入生に金城大学にはどんな設備があり、どのような学校なのかを知ってもらうのが目的でした。

実施中は、上級生が新入生に「ここは、介護実習室。介護福祉コースになったら、いろいろな技術や介護方法を実践的に学ぶための教室です。」などと説明していました。

歓迎会は、新しい友人や新しい発見をすると同時に大学生活の最初の一歩でもありますので、新入生が新しい仲間や大学生活の一歩目を楽しく踏み出せたのなら、実行委員一同幸いです。

(新入生歓迎会実行委員長 長瀬俊介)

間の練習を行い、チーム力強化に努めました。

結果としては、目標にあと一歩でしたが、恵まれた環境に恥じない努力の大切さを体感しました。

各方面からの多大なご支援のお陰で爽やかなチームづくりができたことと自負しています。(監督 講師 松下高信)



●硬式テニス部

硬式テニス部は、月水金曜日の放課後に練習。地域の各大会に出場しています。経験者・未経験者全員が一緒に練習しています。

4月 北信越学生トーナメント大会予選出場
5月 同本戦 山本晴香(シングルスベスト16、ダブルスベスト4) 松任市テニス選手権 齊藤俊樹 準優勝

6月 松任市民体育大会 齊藤・鈴木亮平組 準優勝 松任市ミックスダブルス大会 齊藤・山本組 準優勝

8月 北信越学生選手権大会予選出場 同本戦 山本(シングルスベスト8、ダブルスベスト4) 北信越チャレンジ大会 齊藤 優勝

10月 北信越学生新選選手権 山本 準優勝(代表 鈴木亮平)

●NSS

NSSサークルは、ニュースポーツを楽しむサークルです。ニュースポーツの中でも主にキンボールに力をいれています。また、ベタンク、フライングディスクなどキンボール以外のニュースポーツの大会にも参加しています。その他いろいろな地域にて普及活動も行っています。(代表 上田良和)

(関連記事：トピックス、体験レポート)

●陸上部

北信越学生陸上競技大会、友誼大会に出場しました。(代表 村田友親)

●女子/男子バスケットボール部

女子部は、毎週火、木に学内の日光アリーナで活動。春の北信越大会で4部リーグ優勝を目指して頑張っています。(代表 土肥琴美)

男子部は、楽しむバスケットをモットーとし、顧問の木村先生のもとで、公式戦勝利を目指し、練習を行なっています。(主将 内島一憲)

●硬式野球部

硬式野球部は、北陸大学野球秋季大会に初参加し、3部で優勝することができました。次の目標の2部リーグ昇格に向け一丸となって頑張っています。(主将 本橋匠)



●準硬式野球部

準硬式野球部は、秋季北信越大学大会で初出場ながらベスト8を達成、各部門が自信と経験を身につけ、チームとしても来年への課題を見つける価値のある大会となりました。

また、11月の全日本大学9ブロック対抗野球大会に北信越選抜として1名選出されたことも良い経験でした。春季の北信越大会を目指し頑張っています。(代表 宮下真司)

●音楽部

もつといろいろな音楽を(聞いて、演奏して)楽しむために、又、楽器の弾けない人も気軽に参加してもらいたく、音楽部(音を楽しむ部)を結成しました。活動は、主に文化祭でのステージ発表に力を入れてがんばっています!(部長 紺 昇平)

●社会福祉研究クラブ

元気な高齢者、福祉施設と地域社会、ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて、知的障害者授産施設でボランティア活動をしました。松任市内の4施設へ訪問し、地域との関わりについて調査しました。その結果をまとめ、学園祭で展示やレポートにして発表しました。

また、DVについて県庁や女性支援相談センターでの相談件数や取り組み等について調査しています。結果をまとめパンフレットを作成する予定です。(代表 吉川昭紀)

●WISH

WISHは、松任市内にある施設でボランティア活動を行っています。「WISH」とは、願いという意味であり、人の役に立つようにという思いをこめました。松任市内にある知的障害児施設にボランティアに行き、施設の利用者と一緒に話し、楽しく遊んでいます。他に知的障害者授産施設等でもボランティア活動や、施設のイベントに参加し、地域との交流を深めています。(代表 山西正史)

●ダンス部

現在、部員は総勢70名で、週末は地域のイベント等にボランティアで参加しました。学園祭や短大の定期演奏会等の大舞台に向けて、強化合宿や週3~5回の練習をしています。衣装、小道具、振付け、脚本も自分達でつくり、部員全員の心が一つになるような舞台づくりを心掛けています。卒業時には入学した時より少しでも「いい自分(そしていいダンス部)」になれるようこれからがんばっていきます。(代表 山崎知貴)

●プロレス研究会

部員は5名と少ないですが、毎週月曜日16時

Circle

2 クラブ活動

卓球部、女子バレーボール部が全国大会で健闘

●卓球部 試合結果

5月 春季北信越学生選手権(石川)団体男女共に優勝。男子ダブルス 坪倉・鈴木組、シングルス 坪倉優勝。女子 青木・荒井組優勝。

8月 全日本大学対抗選手権(千葉)男女共に予選通過。夏季北信越学生選手権(新潟)団体男女共に優勝。

男子 坪倉・鈴木組、男子 鈴木優勝。

女子 伊吹・竹田組、女子 伊吹優勝。

10月 全日本学生選手権(愛媛)各選手2回戦、3回戦進出。秋季北信越学生選手権(富山)団体男女共に優勝。男子 鈴木優勝。

女子 盛本・平野組、盛本優勝。

11月 北信越学生新人選手権(福井)団体男女共に優勝。男子 森普・鈴木組、中居優勝。女子 伊吹・竹田組、伊吹優勝。

(監督 教授 矢吹嘉昭)

●女子バレーボール部

シーズンの目標は、北信越地区内全4大会、全て優勝、東日本大学選手権ベスト8、全日本大学選手権ベスト16、そして誰からも好意を持たれ、応援されるチームづくりでした。

3月に第1回合宿を松任市で、第2回合宿を京都橘女子大学で実施。大阪体育大学など関西の強豪5チームとの練習試合を行い、全国レベルに触れる大変有意義な機会を得られました。

8月、兵庫大学との第3回合宿、10月、金沢商業高校、京都成安高校との第4回合宿を本学で実施。また通常週に6日、1日平均5時

●平成14年度 就職支援事業報告

就職進学指導室の支援事業に対しまして、後援会会員の皆様のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。平成14年度に実施した就職支援事業について下表のとおり報告いたします。

- ・前期と後期に行う「就職ガイダンス」を核とし、社会福祉学部としての特性をもたせ実施いたしました。
- ・全ての講座においてより多くの学生参加を望んでおりますが、参加数にやや不満が残る講座もありました。
- ・学生本人の進路に必要と思われる講座については、保護者の皆様からも受講を勧めていただければ幸いです。
- ・平成15年度就職支援事業計画については、4月就職ガイダンスにて学生に発表いたします。

支援事業	対象学年	実施日	参加数	内容等
就職ガイダンス	全学年全学生	前期：4月4日 後期：10月1日	1,104	本学就職支援の核となる行事で、講演・各種情報提供など、学年に応じた内容で実施。
公務員採用試験対策講座	全学年希望者	6月～15年5月	126	120分の講座を年間25回実施。外部より派遣の担当講師によると、他大学に比べ出席率が非常に高いとの評価。
教員採用試験対策講座	全学年希望者	6月～15年5月	15	120分の講座を年間25回実施。
福祉施設等就職対策講座	2・3年希望者	12月～15年5月	155	石川県福祉人材センターより講師を招いての第1回講座を12月に実施。15年5月までに計4回を実施する予定。
就職模擬試験	3年 希望者	11月8日	105	受験者は今後の筆記試験対策の必要性を痛感した様子。筆記試験対策への意識付けという面で効果があった。
就職活動対策講座	3年 希望者	12月8日	132	会社訪問・面接時のマナー／面接の受け方／自己アピールできる履歴書作成についての講座。（北国・北陸中日新聞記事掲載）
就職手帳配布	3年 全学生	10月1日	193	就職活動方法などを中心に掲載した手帳タイプの手引書を配布。
3年生個人面接	3年 全学生	10月7日～25日	185	就職希望状況の把握、就職活動への意識付け、就職に関する相談・アドバイスを柱に面談を実施。就職意識が芽生えてきた。
社会福祉士国家試験対策講座	3年 希望者	10月～15年1月	148	石川県社会福祉士会より講師を招き、国家試験科目全13科目中8科目について実施。
社会福祉士全国統一模擬試験	3年 希望者	11月10日	101	本来4年生が対象となる模試であるので満足な結果ではなかったが、これからの意識付けは図られた。
就職先開拓活動	教員・事務職員による企業・福祉施設等一斉訪問を実施。また、年間を通して担当職員による就職先開拓活動を実施。			
就職相談ラウンジ運営	パソコンコーナー：パソコン8台常時利用可 資料コーナー：企業・福祉施設等の各種ファイル 各種資料、相談カウンター：就職に関する相談受付			

●3年生に個人面接を行いました。

10月に個人面接を行い、就職希望先を調査しました。結果は右図です。個人差はありますが、ようやく就職意識が芽生えてきたようです。面接時にアドバイスしたことを理解し、具体的な活動を通して「内定」獲得を目指してもらいたいと考えております。気になった点では、自分を真剣に見つめた上で進路を決定している様子があまり感じられなかったこと、新聞に目を通していない学生が思いの他多かったことがあげられます。

●4年次は超多忙…年間スケジュール作成と活動が重要!!

4年次では、個人差はありますが、授業、定期試験、実習（介護実習、社会福祉援助技術現場実習、教育実習）、卒業論文・事例研究、社会福祉士国家試験対策などに加えて「就職活動」を行うこととなります。これらをこなすには、綿密な年間スケジュールの作成とそれに基づいた行動が必要です。この大きな山を越えることが、卒業と就職決定を勝ち取ることに繋がります。

社会が「新卒者に求める学生像は、「学生時代に何かの課題を自分に課し、自己責任においてその課題を乗り越える経験を積んだ学生」です。社会人になれば、好むと好まざるに関わらずこのような経験を繰り返しながら成長します。

この1年間は、学生が社会人として歓迎されるための模擬体験期間でもあります。4年生の健闘を祈るとともに、他学年の学生もなるべく早いうちに自分の進路を決定し、そのための準備を始められるよう支援していきたいと考えております。（就職進学指導室長）

平成14年度 3年生進路登録結果 H14.10

第1希望	社福 コース	介護 コース	計	構成比 (%)
福祉施設等	52	50	102	52.8
公務員	26	10	36	18.7
企業	18	11	29	15.0
教員	7	4	11	5.7
進学	3	0	3	1.6
その他	8	4	12	6.2
計	114	79	193	100

併設校情報

遊学館高校野球部 夏の甲子園大会初出場 ベスト8に進出。春も出場。

本学の併設校である遊学館高校の野球部が昨夏の甲子園大会に創部500日、1・2年生のみで初出場し、ベスト8に勝ち進みました。

そして、昨秋の北信越大会優勝以来、首を長くして待っていた「春の甲子園大会出場確定」の吉報が1月31日によりやく届きました。選手達は一段の飛躍をすべく日タレーニングセンターでの筋力アップ、雨天練習場での技能強化をし、1・2年生の部員は一回り身体も大きくなり、力もスピードも増しております。

編集時には春の甲子園大会はまだ始まっていませんが、今後とも皆様のご支援・ご声援をよろしくお願い致します。

